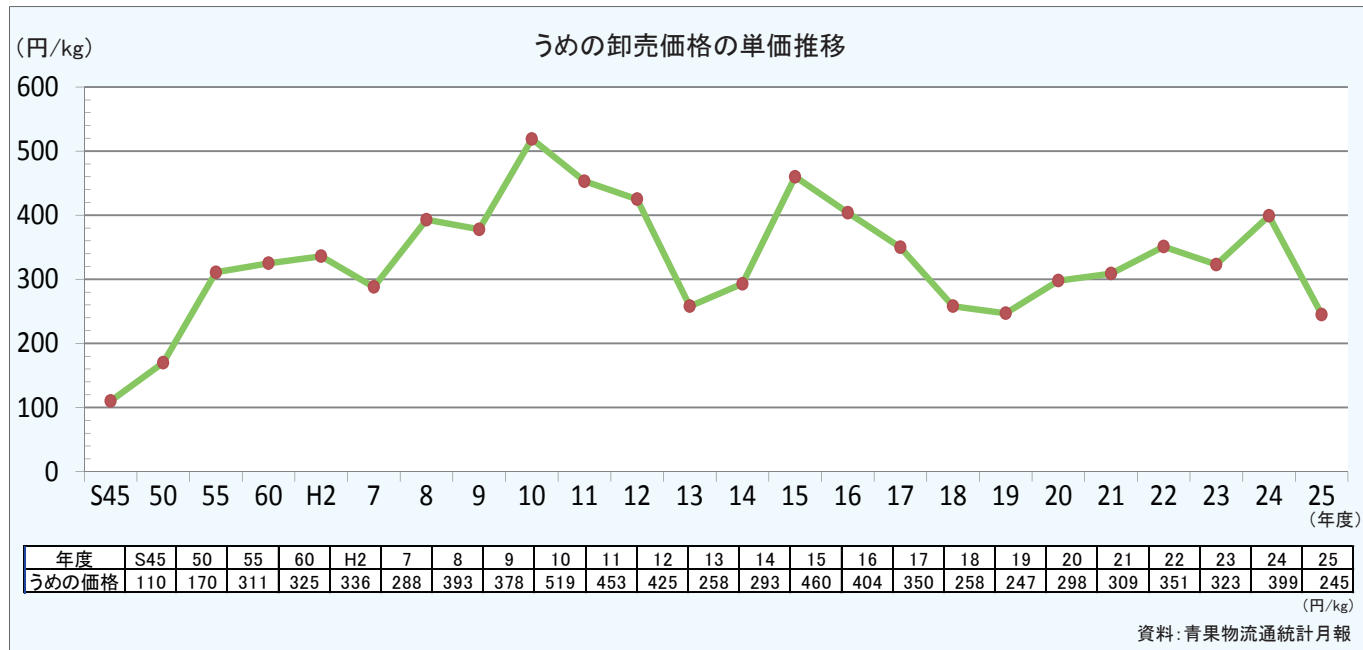


梅の単価推移



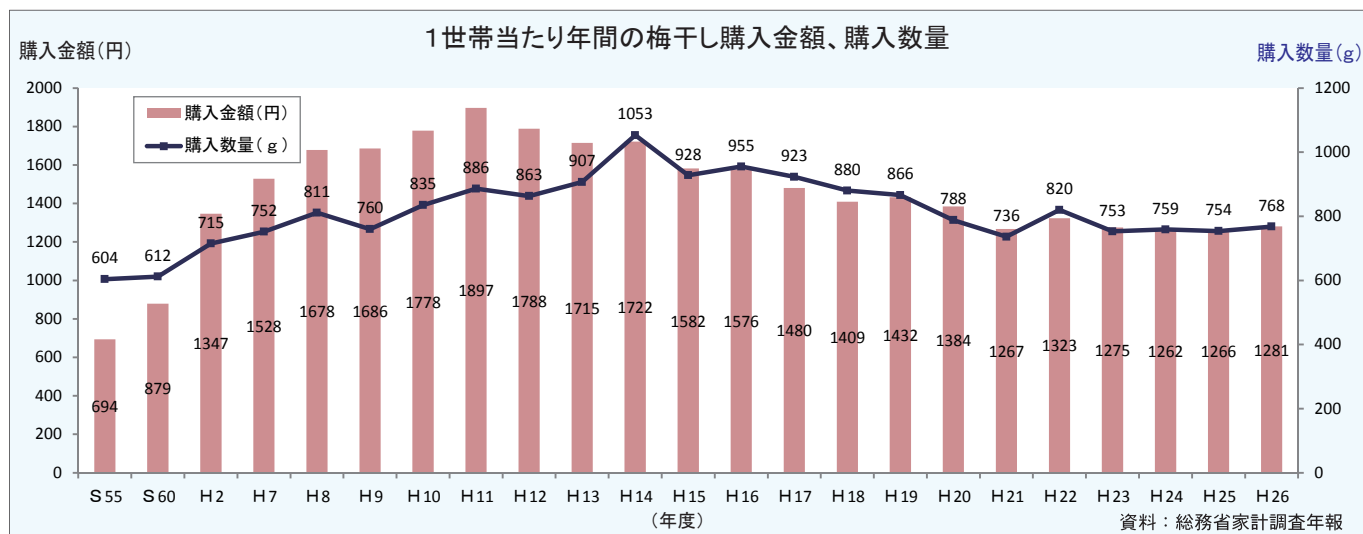
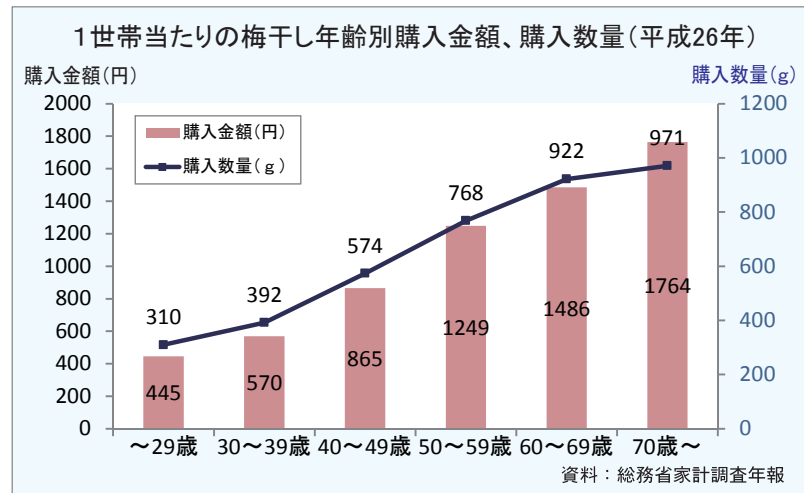
梅の消費動向

梅干しの需要

梅干しの消費について、金額・数量とも増加傾向にありましたが、金額は平成12年度から、数量は平成15年度から徐々に減少しています。

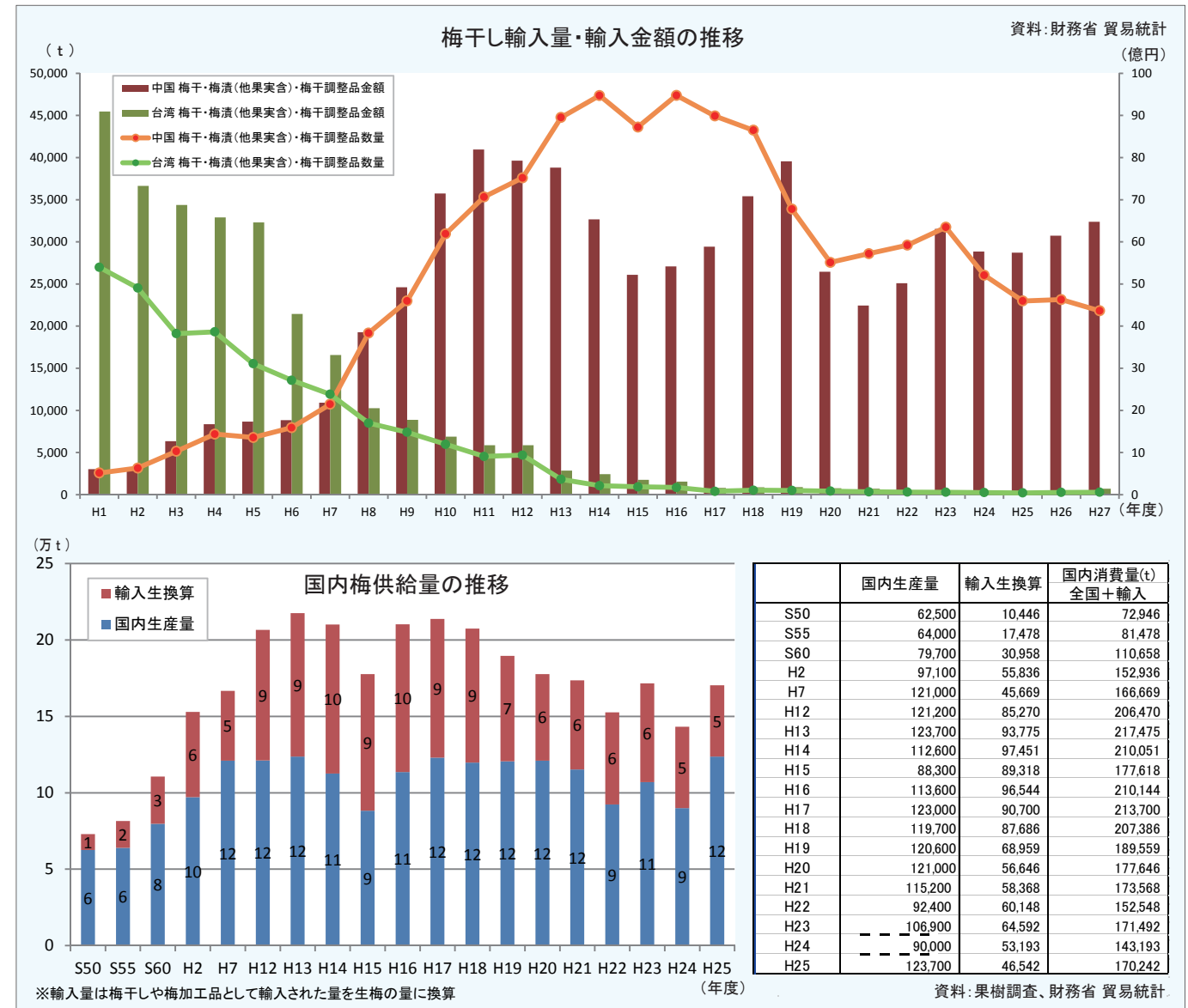
金額・数量ともピーク時に比べ、平成26年では約3割減少していますが、ほぼ横ばい傾向です。

また、年齢別に見ると金額・数量とも年齢が上がるほど上昇する傾向にあります。



梅干しの供給

昭和50年頃の国内の梅供給量については、輸入量が少なく、輸入の大半は台湾産が占めていましたが、近年は輸入元が台湾から中国へ移っています。輸入量は平成7年頃(全体約23,000t)から大幅に増加し始め、平成14年度時点(全体約49,000t)で2倍以上に増加しています。その後、平成17年度から輸入量は徐々に減少し、平成27年度は全体約22,300tとなっています。



梅酒の流通量

